

## —編集後記—

土壌の物理性 137 号をお届けします。これを書いているのは 10 月、北海道では初雪も降り、測定機材の撤収や試料採取も一段落して冬の訪れを実感しております。みなさまのお手元に今号が届く頃には、根雪になっているかもしれません（試料の山は片付いていると良いのですが）。

前号より編集委員が新体制になりましたが、私は他の学会誌も含めて初めての編集委員です。編集委員として責務を果たせるだろうかと不安に感じることも多いのですが、経験豊富な編集委員長、編集幹事、編集委員の皆様が学びながら、少しでも貢献できるよう尽力させていただきますので、どうかよろしくお願いたします。

最近、各機関での若手研究者の募集を目にすることが多くなりました。私の所属しているグループにも、来年度は 20 代の若手研究者が増えそうです。私自身は、学

位を取得してから昨年までの約 8 年間、大学と今所属している機関でポスドクとして過ごしました。制度や社会情勢に思うことが無い訳ではありませんが、博士課程在籍中やポスドクの間、他の研究機関や大学の研究者の方々と一緒に研究する機会を得られたのは、非常に貴重であったと感じています。特に若手研究者にとって、学会は組織を超えて人脈を広げ様々なことが学べる貴重な場です。「土壌の物理性」では、論文はもちろんのこと、土粒子では研究に対する取組み方について考えさせられることも多々あります。まだまだ未熟者で、まずは自分が成長しなくてはなりません。学会活動が重要な人材育成の場であることを感じる今日この頃です。

清水真理子（編集委員）

### 土壌物理学会

#### 事務局構成

会 長	石黒 宗秀	(北海道大学)
副 会 長	竹内 晴信	(北海道立総合研究機構)
庶務幹事	柏木 淳一	(北海道大学)
編集幹事	塚本 康貴	(北海道立総合研究機構)
会計幹事	倉持 寛太	(北海道大学)
会計監査	志賀 弘行	(北海道立総合研究機構)
	横濱 充宏	(土木研究所寒地土木研究所)

#### 編集委員会

委 員 長	澤本 卓治	(酪農学園大学)
委 員	飯山 一平	(宇都宮大学)
	岩田 幸良	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	北川 巖	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	小林 幹佳	(筑波大学)
	三枝 俊哉	(酪農学園大学)
	清水 真理子	(土木研究所寒地土木研究所)
	鈴木 伸治	(東京農業大学)
	中川 進平	(秋田県農業試験場)
	中野 恵子	(農業・食品産業技術総合研究機構)
	中村 和正	(土木研究所寒地土木研究所)
	丹羽 勝久	((株)ズコーシャ)
	笛木 伸彦	(北海道立総合研究機構)
	渡辺 晋生	(三重大学)